

一人一人のニーズに応じた授業
保健体育科 学習指導案

日時	平成20年 2月 15日 (金) 2校時
対象	高等部 卓球グループ 男子9人(1年3人2年4人3年2人)女子13人(1年8人2年5人) 計22人
場所	体育館 指導者 森山(CT),(ST)岸尾 川村 寺下 海川 中吉 有村 池田

題材名 選択種目(卓球グループ)

題材について

本題材は、生徒自身が種目選択を行い、各種目ごとに活動していく学習である。種目の設定は、生徒の興味・関心や種目の特性、卒業後にも活動できる可能性のある種目、そして施設面などを考慮して、卓球、バスケットボール、ボウリングの3種目を設定した。
その中でも卓球は、卓球台があれば少人数でゲームを楽しむことができ、相手との距離が近く、ラリーが続きやすい。また、ルールや道具を工夫することで、それぞれの実態やニーズに合わせて、手軽で安全に楽しめるスポーツである。

生徒の実態

卓球を選択した生徒たちは、中学校時代に卓球部だったり、週1回本校で行われているスポーツクラブで卓球に取り組んだりして、ラリーやゲームを楽しむことができる生徒や、友達同士が話をしている卓球の話題を聞いて、卓球に憧れや興味を持った生徒など、卓球への興味・関心の高い生徒が多い。
しかし、生徒一人一人の技能面を見ると、基本的な技能を身に付けゲームに活かせる段階の生徒から、ラケットにボールを当てるのが精一杯の生徒まで実態は幅広い。また、ルール・安全面に関して、十分に理解し実践することのできる生徒、知識としては習得しているが、実践するのが困難な生徒、その都度、具体的な指示や言葉掛けが必要な生徒まで実態は様々である。
個別の指導計画の体育に関する基礎課題に着目してみても、「身体機能の向上」、「運動の楽しさを味わうこと」、「余暇へつながる活動の経験拡大」、「就労のための体力向上」など、課題も様々である。

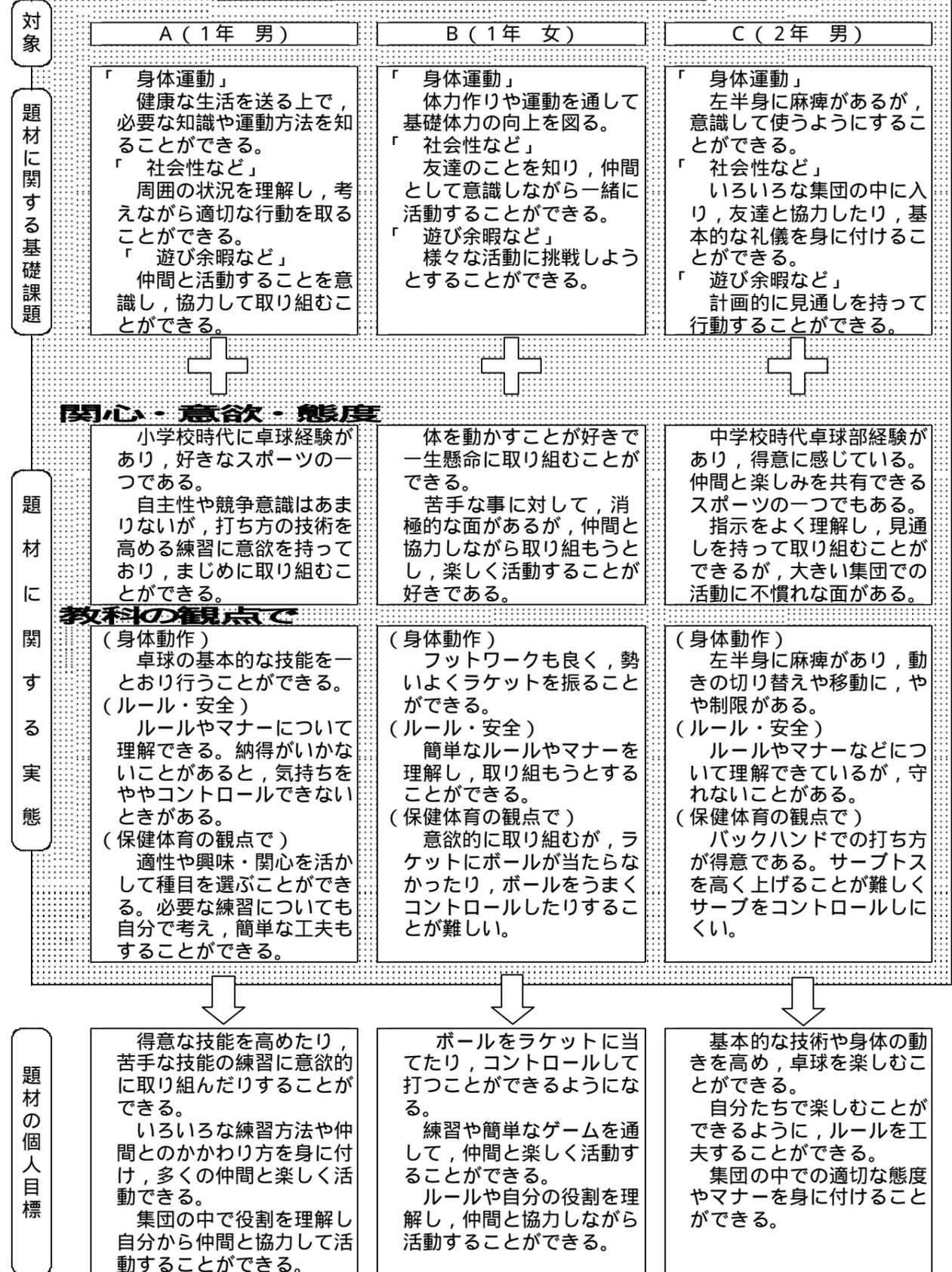
指導観

本題材では、選択した種目を通して技能の向上と人とのかかわりを深め、運動の楽しさを体験できるように指導したい。
そこで、種目を選択するにあたっては、生徒の興味・関心や適性などに応じて種目を選択できるようにオリエンテーションを実施し、デモンストレーションや体験活動を行う。
卓球においては、教育課程や卓球の技能に関係なく人とのかかわりを深め一緒に活動できる内容と、技能の向上を図るために、同じレベルの生徒同士が活動できる内容の2つに分けて活動を進めていきたい。
前者は、ボール慣れや簡単なゲーム、体づくり運動の中で主に扱い、仲間意識を高めながら協力して楽しく活動できるようにしていきたい。
後者の活動では、生徒の能力に応じた課題を設定するとともに、ルールや道具などの工夫を行い、それぞれの段階に応じた達成感を味わうことで、運動の楽しさを体験できるようにしていきたい。
以上のような学習を通して、一人でも多くの生徒が運動することの楽しさを実感し、今後の体育の授業はもちろんのこと、昼休みや家庭生活、卒業後の生涯にわたる生活において、自ら運動する態度が養われるのではないかと考える。

題材の目標

課題を達成するために積極的に活動に取り組むことができる。
仲間を認め合い、協力して楽しく活動することができる。
決まりやルールを守って、安全に活動することができる。

一人一人の実態から目標設定へ



指導計画 総時間数 16時間

次	主な学習活動	時間	指導形態
一	オリエンテーション	1	・ 高等部全
二	<p>技能に関係なく全員で取り組む活動 技能別に取り組む活動</p> <p>1 ボール、ラケット慣れ ・ ボールつき</p> <p>2 基本的な技能の練習 ・ サーブ、レシーブ</p> <p>3 ラリーを続ける</p> <p>4 簡易ゲーム</p>	9 本時 (9/9)	・ 一斉指導 ・ 課題別指導
三	<p>技能別に取り組む活動</p> <p>1 基本技能の課題別練習</p> <p>2 ルール</p> <p>3 ゲーム ・ 転がしゲーム ・ ラリーゲーム ・ シングル ・ ダブルス</p>	6	・ 課題別指導

指導にあたって

準備運動や整理運動の際、車椅子や肢体不自由の生徒は、自分のペースでしっかりと行えるように言葉掛けをしたり、教師と一緒にいたりする。

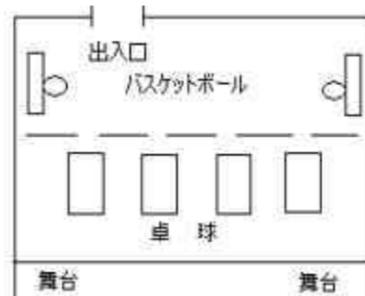
1対3での台を使ったボールつきでは、いろいろな仲間と楽しく練習ができるように、卓球台にテープを貼ったりネットを取り外したりするなどの教具の工夫や、どうすればみんなが楽しめるのか生徒の考えも取り入れる。

ラリーを続ける活動のそれぞれの段階による多球練習では、個々の課題を確認しながら練習できるように、段階別でのレシーブ練習を十分に行うようにする。その際決められたコート内にレシーブをしたり、印をねらってレシーブをしたりするなどの具体的な指示を出す。

また、簡易ルールによる練習では、それぞれのグループに応じた楽しみ方ができるように、ルールや教具を工夫する。具体的には、ボールの速度を遅くするためにラージボールを使用したり、ネットの下をボールが通るようにする。

ボール拾いは、交代で協力しながら行うようにする。その際、卓球台の角やプレー中の生徒にぶつかったりしないように、周囲の安全確認を十分に行うようにする。

場の設定



ボウリング (日常生活訓練棟)

本時の実際 (40分)

	全体	個人
目標	それぞれの段階に合った基本的な打ち方を、協力して楽しく練習することができる。 ルールを守り、ラリーを続けて楽しむことができる。	
主な学習活動	<p>1 はじめのあいさつ</p> <p>2 準備運動</p> <p>3 本時の学習内容の確認</p> <p>ボールつき ラリーを続ける</p> <p>4 技能に関係なく全員で取り組む活動 1対3での台を使ったボールつき</p> <p>5 技能別に取り組む活動 ラリーを続ける ・ それぞれの段階による多球での練習 ・ 各グループでの簡易ルールによる練習 転がし 1対1 2対2 1対2</p> <p>6 後片付け</p> <p>7 整理運動</p> <p>8 本時のまとめ</p> <p>9 次時の確認</p> <p>10 終わりのあいさつ</p>	
導入10分		
展開25分		
終末5分		

	A (1年 男)	B (1年 女)	C (2年 男)
目標	練習したい打ち方や、グループでの練習方法を考えて取り組むことができる。 自分の役割を理解して率先して活動することができる。	ラケットにたくさんボールを当てることができる。 仲間と楽しく練習やゲームをすることができる。	いろいろなボールに対して、動きを合わせることができる。 ルールやマナーを守り、仲間と楽しく活動することができる。
指導上の留意点	<p>・ 当番を指名し、服装、姿勢の確認などを行い、大きな声であいさつをするように言葉掛けを行い、学習への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>・ 各部位を意識できるように言葉掛けをする。</p> <p>・ 授業の流れや学習内容をホワイトボードに掲示し、確認できるようにする。</p> <p>・ 様々な技能段階の仲間と一緒に、継続した練習グループで行い、仲間意識が芽生えるようにしたり、自分たちで楽しく練習したりしていくことができるようにする。</p> <p>仲間に出しをする役割を設定し、グループのリーダーとして仲間が楽しく練習できるように考えていくことができるようにする。</p> <p>仲間が球出したボールを仲間と協力して返すことで楽しい気持ちが高めることができるようにする。ラケットを大振りせずにボールに当てるよう言葉掛けをしたり、教師と一緒にいたりして成功率を高め、自信を持てるようにする。</p> <p>それぞれの段階に応じたグループに編成し直し、自分の課題に合ったレシーブの練習や、各グループの段階に応じた方法でラリーが続けられるようにする。</p> <p>ラリーを長く続けるために、本人が練習してみたいと思う内容を確認したり、一緒に考えたりする。</p> <p>本人に近い位置から球出しをし、徐々に遠くから球出しをする。また、ラージボールを使用し、ボールの速度を落として、受けやすいようにする。</p> <p>いくつかの方法を提示し、グループで話合って進められるようにする。 決まった内容の中で、ラリーをリードしていくような役に挑戦するように提案する。</p> <p>教師が球出しを行い、グループのメンバーが1球ずつ交代する方法を取り、力を合わせて楽しくラリーが続けられるようにする。 目標の回数を決めたり、失敗した時は連続して行ったり、うまくできた時は賞賛をしたりして、楽しい気持ちを持続できるようにする。</p> <p>グループの仲間に球出しを行う場を設け、いろいろな仲間とのボールのやりとりを通して、楽しく活動に参加できるようにしたり、かわりを広げたりすることができるようにする。</p> <p>フォアとバックの切り替えに重点をおいた球出しを行い、身体をうまく反応させる練習ができるようにする。</p> <p>ラリーを長く続けるために、ボールの高さやスピードなどについて意識できるように師範を行う。授業中のマナーや結果に対する適切な態度について、その場に応じて一緒に考え、仲間と良い関係を築きながら楽しく活動に参加できるようにする。</p>		
個別の手だて	<p>・ ラケット、ボールの後片付け、モップ掛けを協力して行うように言葉を掛けたり、誘導したりする。</p> <p>・ 各部位を意識できるような言葉を掛けながら、リラックスするためにゆっくり大きな動作で行う。</p> <p>・ 本時を振り返り、自己評価ができるようにする。</p> <p>・ 次時の活動を伝える。</p> <p>・ 当番を指名し、服装、姿勢などの確認を行い、大きな声であいさつができるように言葉掛けを行う。</p>		

個別の手だて

重要評価ポイント

